



総会であいさつする大場尚文理事長

### 平成29年度定時総会

## 決算と事業報告承認

平成29年度の当協会定時総会は、6月3日午後2時40分から、仙台市青葉区五橋の仙台市福祉プラザで開かれた。

開会に先立ち、司会の中塚仁執行理事が、出席者と委任状で総会成立の定足数を満たしていることを確認。大場尚文理事長

のあいさつに続き、議長に選出された及川英之絵画部部长が、大場理事長と雫石隆子執行理事を議事録署名人に指名した。

最初に、報告として「平成29年度事業計画及び収支予算について」が執行部から説明された。議案は「平成28年度事業報告及び収支決算の承認について」の一件で、渡部勝彦執行理事が事業報告、佐々木光一執行理事が収支決算について説明した。

平成28年度事業報告では、賛助会員の拡大について、70件を超す新賛助会員の入会があり、大きな成果を挙げたことなどが報告された。

収支決算では、平成28年度は当協会の資産が前年度から90余万円の減となったが、前年度と



公益社団法人  
宮城県芸術協会  
(郵便番号 980-0802)  
仙台市青葉区二日町16-1  
二日町東急ビル5-B  
電話 (022) 261-7055  
FAX (022) 214-5184  
E-mail:miyagi-geikyo@sunny.ocn.ne.jp  
発行者 大場尚文

「はなやま」の題号は、  
芸協の創設が宮城県花山村（現栗原市花山）湖畔亭の会合で決まったことにちなんで付けられた。

比べると減額の幅を130万円以上縮減することができたことなどの説明があった。

次いで佐藤光郎監事から、業務の執行状況及び会計処理は適正であった旨の監査報告があった。その後、質疑と採決に移り、議案は満場一致で可決された。

伊達政宗は今から450年前の永禄10年、伊達輝宗の嫡子として米沢城で生まれた。伊達家は中世から連歌・書道・茶道・

### 総会記念講演 「文化人としての伊達政宗」 —記録で辿る人間政宗—



仙台大学客員教授  
伊達宗弘氏

香道・能楽など学芸をたしなむことを家風とする家柄である。

輝宗は、5歳で片目を失明した政宗に武道のみならず、和歌

山文学や漢文・漢詩などの教育をほどこした。

こうした伊達家の家風と政宗の天分が、秀吉に臣従した24歳



### 大きく、明るく 芸協会員バッジを一新

当協会では、新会員に会員証と共に配布する会員バッジ（徽章）の在庫がなくなったのに伴い、このほどデザインを一新したバッジを制作した。

従来のものは、芸協のシンボルマークそのままをバッジにしたもので、小さくて扱いにくく、目立たないとの意見があった。今回のものは、直径18ミリの

や茶道、能などの芸道も教えた。6歳の時には君主としての見識を身に着けさせるため、臨済宗の僧である虎哉を師につけ、五

円形で、スカイブルーの背景に金でシンボルマークが表現され、周囲も金で縁取りされている。従来のバッジよりも大きく、明るくなり、本来の青空にふんわりと浮かぶ雲のイメージが強調し、目に付きやすくなった。

新しいバッジは、新会員には順次配布中であるが、希望者には事務局で500円で頒布する。以降、一流の人たちとの出会いを通して大きく花開いた。

政宗には、正室愛姫や母保春院との贈答歌、朝鮮出兵のおり詠んだ漢詩、吉野の観桜会での詩や和歌などが数多く残されている。また、国宝となっている大崎八幡宮や瑞巖寺本堂など桃山建築の造営も行っている。

戦うイメージの強い政宗であるが、残された和歌や記録類からは、むしろ人間味のある文化人としての人柄がしのばれる。

〈政宗辞世の句〉  
曇りなき心の月を先だてて  
浮世の闇を照らしてぞ行く

第54回 県祭  
第宮 芸術  
芸

「結い」をテーマにオープニングイベント

9月23日

本年度から、芸術祭に共通テーマが設定された。事業全体の統一性を図りながら、芸協12部門の特性を生かした、より魅力的な芸術祭にするのが狙いで、共通テーマをもとにした県民への分かりやすくかつインパクトのある広報活動にも役立てる。

初年度となる本年度の第54回芸術祭では「結い」を共通テーマに設定し、部門間のコラボレーションをはじめ、各部門や会員各自の作品などでテーマの実現を試みる。

1階のオープンスクエアでオープニングイベントを開催。「結い」をテーマとした第54回芸術祭を県民に強くアピールし、各事業への来場者の増加につなげることにした。

オープニングイベントは、13時30分から約2時間にわたり、

二部構成で行われる。

第一部は華道部全流派参加の生け花実演、書道部の揮毫パフォーマンス、洋楽部と邦楽部の合同演奏によるコラボレーション、第二部は大邱交流事業の再演で、邦楽部(三曲)と舞踊部(日本舞踊)によるコラボレーションなどでテーマの「結い」に迫る。

青森市で29年度芸文協

平成29年度東北・北海道芸文協文化団体協議会総会が6月6日、青森市で開催され、当協会からは大場尚文理事長と事務局の伊藤敏之主任が出席した。

総会に先立ち、交流事業として、弘前大学の塚本悦雄教授による「日本の彫刻―近代から現在―」の講演会が開催された。

総会では「平成28年度事業報告及び収支決算」と「平成29年度事業計画及び収支予算」を審議し、議案どおり承認された。

30年度からは幹事が青森県から福島県に引き継がれる。新幹事のもと、さらなる事業の展開と交流の深まりを期待したい。

◆新運営委員

【茶道部】 佐藤宗博

私は芸術協会を応援します

新賛助会員

(個人)

◇川上 伸昭 様

【はなやま212号訂正】

・三面新入会員名簿

・洋楽部 藤本淳子↓藤本純子

・四面下段文学散歩見出し

5月20日・21日実施↓10月

4日・5日実施

絵画部スケッチ研修会

山居倉庫、鳥海山など写生

本年度の絵画部スケッチ研修会は、5月20日、21日の二泊二日の日程で実施された。

1日目は山形県酒田市の山居倉庫、日和山公園でスケッチ。夜の懇親会では参加者が思い思いに親睦を深めた。

2日目は残雪の鳥海山麓を訪れた。山荘での昼食後、作品鑑賞会を開催し、互いに成果を見せ合いながら交流を図った。

両日とも好天で、充実した研修会となった。参加者は32人。



残雪の鳥海山をスケッチする参加者

当協会と河北新報社主催の第21回社の都大茶会が5月27、28の両日、仙台市青葉区の勾当台公園で開かれた。

雨上がりの新緑のもと、今年も芸協茶道部13流派が二日に分かかれ、来場者にお点前を披露。初心者や学生を対象とした無料体験コーナーも開設された。

この茶会は、今や仙台の初夏の風物詩として定着。来場者は8878人に上り、それぞれお目当ての茶席でお茶を楽しんだ。



主催者・茶道各流派代表者によるテーブルカット

第21回社の都大茶会

初夏の風物詩として定着

星 悠 丈  
名 誉 会 員

# 元理事長相次ぎご逝去

高 倉 健  
名 誉 会 員

当協会では理事長として活躍された高倉健名誉会員が4月4日、星悠丈名誉会員が6月16日に相次いでご逝去された。会員一同深く哀悼の意を表したい。

高倉名誉会員は第6代理事長として平成10年から14年まで在任。芸協法人化10年記念として「芸術ふれあい広場」を開催。部門間交流の推進に貢献された。

星名誉会員は、第7代理事長として平成14年から18年まで在任。公益法人化を視野に「定款検討小委員会」を設置するなど、定款の整備に取り組まれた。



宮城県 芸術協会 第7代理事長を務められた 星悠丈(光二)先生が6月16日、満83歳で永眠された。2年程前から茶道部の運営委員会でもお目に掛からなくなり、ご体調が良くないと伺っていたものの、ご逝去の報を受け、誠に悲しく残念である。

煎茶道三彩流は、二代華丈先生の代、昭和41年の芸術協会茶道部草創期から加入しており、悠丈先生は昭和51年2月、同流



高倉健先生は、昭和5年生まれ。4月4日

に満86歳で旅立たれました。何とも無念であります。亡くなる4日前に病院を見舞い、いつもは聞き役なのに饒舌にお話をされ、楽しい一時を過ごしたばかりでした。先生は若いうちから陶芸に興味を持たれ、昭和49年に芸協会員になりました。工芸部だけでなく、平成10年、14年まで第6代理事長としての活躍が光り

ました。多忙な職務にありながら、持ち前のチャレンジ精神で魅力あふれる作品を次々と発表されました。先生の陶芸教室名は「陶房酔」。お酒好きの先生は、マイ盃でのリラクスタイムを楽しまれていました。作品の発表の場としては、芸術祭工芸展、新翔工芸会展などが挙げられます。芸術祭工芸展では、県民の皆さんに工芸作品を見せて後進を育てたい、とい

## 高倉健先生を偲んで

前工芸部部长(陶芸) 近藤孝則

う先生の希望で巡回展を開催することにしました。当時の芸術祭巡回展では気仙沼、築館、石巻などの会場を順に巡回。会員には会場当番に協力をいただき、各地の皆様の意気高揚が図られました。また、先生は日本工芸展、日展と果敢に挑戦され、中央展出品への先駆けにもなりました。こうした地域振興に貢献され

## 星悠丈先生のご逝去を悼む

参事(茶道部) 高橋威仙

の三代家元に就任されている。仙台市は平成元年四月、政令指定都市になったが、当時芸術文化の統合センター的機能を持つ施設の整備が望まれていた。星先生はこの建設促進委員としてご尽力され、その結果は平成13年、市図書館・市民ギャラリーとしての「せんだいメデイアテーク」建設に結実している。また、平成4年の芸協法人化

たことなどが認められ、仙台市市政功労者表彰・地域文化功労者文部科学大臣表彰、第58回河北文化賞などを受賞されました。先生は常に自然を愛し、その神秘さを作品に取り入れての作陶でした。焼物の原点を訪ねて、原始の野焼きをやっているパプアニューギニアの奥地へ出かけたこともあり、行動力は素晴らしいものでした。今後先生のご教えを守り、陶芸に励んでいきたいと思っております。謹んで先生の在りし日を偲び、ご冥福をお祈り申し上げます。

学部は異なるが、同じ大学の卒業生で、男性でたまたま茶の道を学んでいるということで、時に冗談や漫談を交えて、気楽にお話を頂いた。特にご親切にして頂いたのか、とも思う。次のお家元はお嬢様と決定されているとのこと、ますますの御発展を願うものである。先生がご逝去され、あのやさしいご温顔に接することがもう出来なくなつたことは、本当に大きな悲しみである。先生の在りし日を偲び、心からご冥福をお祈りいたします。

## 平成28年度正味財産増減計算書 [決算]

(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

科目	公益目的事業会計					収益事業等会計	法人会計	合計
	公1	公2	公3	公益共通	公益小計			
I 一般正味財産増減の部								
1. 経常増減の部								
(1) 経常収益								
基本財産運用益	0	0	0	2,506	2,506	0	0	2,506
受取入会金	0	0	0	930,000	930,000	0	930,000	1,860,000
受取会費	0	0	0	12,360,000	12,360,000	2,737,140	7,862,860	22,960,000
事業収益	5,905,550	84,000	1,040,000	0	7,029,550	3,407,000	0	10,436,550
受取補助金等	200,000	0	200,000	0	400,000	0	0	400,000
受取負担金	12,699,000	0	0	0	12,699,000	0	0	12,699,000
受取寄附金	166,000	0	0	0	166,000	0	0	166,000
雑収益	185,000	0	0	2,756	187,756	0	0	187,756
経常収益計	19,155,550	84,000	1,240,000	13,295,262	33,774,812	6,144,140	8,792,860	48,711,812
(2) 経常費用								
事業費	28,191,756	3,104,630	4,555,579	140,000	35,991,974	6,130,140	0	42,122,114
管理費	0	0	0	0	0	0	7,496,432	7,496,432
経常費用計	28,191,765	3,104,630	4,555,579	140,000	35,991,974	6,130,140	7,496,432	49,618,546
当期経常増減額	△9,036,215	△3,020,630	△3,315,579	13,155,262	△2,217,162	14,000	1,296,428	△906,734
2. 経常外増減の部								
(1) 経常外収益								
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用								
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
他会計振替額	9,203,071	3,020,630	3,315,579	△14,242,852	1,296,428	0	△1,296,428	0
当期一般正味財産増減額	166,856	0	0	△1,087,590	△920,734	14,000	0	△906,734
一般正味財産期首残高	515,355	0	0	43,456,278	43,971,633	0	0	43,971,633
一般正味財産期末残高	682,211	0	0	42,368,688	43,050,899	14,000	0	43,064,899
II 指定正味財産増減の部								
一般指定財産への振替額	30,000	0	0	0	30,000	0	0	30,000
当期指定正味財産増減額	△30,000	0	0	0	△30,000	0	0	△30,000
指定正味財産期首残高	190,000	0	0	0	190,000	0	0	190,000
指定正味財産期末残高	160,000	0	0	0	160,000	0	0	160,000
III 正味財産期末残高	842,211	0	0	0	43,210,899	14,000	0	43,224,899

a : 公益目的事業経常費用計	b : 当年度年間全体経常費用	公益目的事業比率 (a / b)
35,991,974	49,618,546	73%



裏千家による呈茶風景

第6回全国やきものフェア  
芸協茶道部の5流派が呈茶

(一財)みやぎ産業交流センター、河北新報社など主催の「第6回全国やきものフェア in みやぎ」が7月13日～17日に夢メッセみやぎで開催され、当協会茶道部の5流派が茶道の普及啓発のためこれに協力した。

会場では、あなたのお気に入りを探しに、をテーマに、全国から参加した120の窯元・作家が作品を展示・販売した。

抹茶碗など茶器・茶道具の展示も多いことから、宗徧流、表千家、武者小路千家、玉川遠州流、裏千家が協力。会場内に設けられた茶席コーナーで日替わりで呈茶を担当し、やきものファンをお茶とお菓子でもてなした。

文学散歩  
10月4日~5日

# 「人と碑と寺院を ゆつたり深く」

本年度の文学散歩は10月4日（水）、5日（木）の日程で「人と碑と寺院をゆつたり深く」をテーマに、岩手県の北上・盛岡・奥州の各市を訪ねる。

見学のポイントをいくつか紹介する。1日目は「日本現代詩歌文学館」常設展の「詩歌と音のプリズム」と、俳人山口青邨旧居「雑草園」。「宮沢賢治記念

館と童話村・賢治の学校」では、広々とした開放感の中で、賢治の世界観を体感できる。

2日目は、反戦川柳人「鶴彬の句碑と墓」、「黒石寺」の国重文四天王立像を見学。「正法寺」では、日本一を誇る茅葺きの大屋根と入り口の惣門がお勧め。

今回は移動距離が短く、ゆつたりとした行程になっている。会員や一般を問わず募集して



茅葺きの大屋根が見事な正法寺本堂

## 参加者募集

# 「加賀百万石の城下町金沢」

研修旅行  
11月7日~9日

本年度の研修旅行は、「加賀百万石の城下町金沢」のタイトルで、11月7日（火）から9日（木）まで、金沢・福井方面への旅となった。

昭和45年に会員親睦を目的に始まった研修旅行は、当初の国内旅行から、平成5年に海外旅行となり、以後昨年まで続けられてきた。近年、テロなど国際的な治安の悪化が顕著になった

ことから、25年ぶりに国内旅行に戻った。

今回は一昨年開業した北陸幹線を利用して金沢まで行き、加賀百万石を中心とする北陸路の歴史や文化を訪ねる。夜は山代温泉、和倉温泉といった北陸の湯どころで旅の疲れを癒やす。

2泊3日という手軽に参加できる日程となったことで、会員同士の交流の旅として、多くの参加が期待される。

詳しい日程や参加費用などは同封のパンフレットの通りで、申し込みは10月6日（金）まで。

# 追悼 及川光波先生を偲んで

参事（華道部） 朴澤一堂



宮城県芸品に心を動かされた者の一人、術協会の名があります。立場は違い、私の流誉会員で草派は伝統的な手法を駆使して生月会の会員け花を構成していきます。作品でもあったの風合いはまるで違いますが、華道人としては作風を理解し、お互いの立場を認めあった良き時代でした。

知らぬこととはいえ大変失礼な事をしたと恥じ入っている。芸術協会の会員として、華道部次第で、心よりお悔やみ申しの代表として活躍されました。宮城県教育文化功労者表彰、宮城県芸術協会功績者表彰・感謝状、日本いけばな芸術協会表彰状など、対外的な表彰は枚挙にいとまがありません。

光波先生には、華道連盟時代からお世話になっており、私が華道の世界でまだ駆出しの頃、先生は大先生の立場におられました。叔父の朴澤一光が連盟の事務局を預かっていました関係で、二日町の家に伺っております。と、いつも「こんにちは」と大きな声で訪問されていたのが印象に残り、先生にはよく面倒を見て頂きました。先生のお宅はすぐそばのマンションにあり、私も時々お伺いした事が走馬灯のように思い出されます。

先生には、内に秘めたダイナミックな男性的な作風が印象に残っており、私もその作風がここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

先生は昭和43年に宮城県芸術協会に入会され、監事や参事を歴任。宮城県芸術祭華道展には毎年のように出品されておりました。華道界での先生の生き方は、われわれ後輩の鏡となっております。

事務局日誌

会務報告

【監事会】4月19日

・平成28年度事業報告及び会計監査

【第1回理事会】4月21日

・平成28年度事業報告及び収支決算の承認について

・平成29年度定時総会の開催について

・新入会員（正会員）の承認について

【平成29年度定時総会】6月3日

・平成28年度事業報告及び収支決算の承認について

【第54回宮城県芸術祭委員会】6月9日

・第54回宮城県芸術祭について

【第1回部長会議】7月7日

・第54回宮城県芸術祭について

・芸術祭共通テーマの取り扱いについて

後援

☆美里町収蔵作品展

5月13日～31日

美里町近代文学館

☆仙台女流美術協会徳島絆グループ

6月2日～8日

せんだいメディアテーク

☆吟鳳会書展

6月13日～18日

東北電力グリーンプラザ

☆第2回美里町収蔵作品展

6月15日～30日

美里町近代文学館

☆第34回白土会展

6月16日～20日

東京エレクトロンホール宮城

☆69回三軌展東北展

6月16日～21日

せんだいメディアテーク

☆第48回創元会宮城支部展

6月30日～7月5日

せんだいメディアテーク

☆仙台ピアノデュオの会会員による第18回デュオコンサート「My Favorite Piece」私のお気に入り

7月2日

仙台銀行ホールイズミティ21

☆第28回宮城示現会展仙台台展

7月7日～12日

せんだいメディアテーク

☆第48回蔵王写生会展

7月7日～12日

せんだいメディアテーク

☆第52回チャールズ会仙台展

7月7日～12日

せんだいメディアテーク

☆第53回宮城水彩展「栗原展」

7月7日～16日

栗原文化会館

☆第28回宮城示現会展美里展

7月13日～16日

美里町近代文学館

☆第6回全国やきものフェア in みやぎ

7月13日～17日

夢メッセみやぎ

☆第45回宮城野書道展

7月14日～18日

せんだいメディアテーク

☆第45回宮城二紀展

7月14日～19日

せんだいメディアテーク

☆第63回全国公募画南書道展

7月14日～19日

せんだいメディアテーク

☆第36回板橋健独唱会（声による表現の可能性を求めて）

7月21日

仙台市戦災復興記念館

☆第9回玄穹社学生展

8月5日～8日

東京エレクトロンホール宮城

☆第70回春光会展

8月15日～20日

大崎市民ギャラリー緒絶の館

8月29日～9月3日

美里町近代文学館

☆高橋麻子企画 音楽の旅第11弾

「フランスとベルギーの」室内楽

8月20日

常盤木学園シユトラウスホール

☆第25回宮城独立美術展

8月25日～30日

せんだいメディアテーク

☆Reunion Concert

8月28日

宮城野区文化センター

☆第40回仙台の四季を描く絵画展

9月1日～6日

せんだいメディアテーク

☆2017仙台オペラ協会第42回公演「フィガロの結婚」

9月2日～3日

東京エレクトロンホール宮城

☆第64回河北書道展

9月3日～9日

TFUギャラリーMini-Mori

☆歌曲のたのしみ三塚典子ソプラノリサイタル2017

9月8日

仙台市戦災復興記念館

☆河北こども美術展

9月15日～18日

TFUギャラリーMini-Mori

☆2017日洋会東北支部展

9月15日～20日

せんだいメディアテーク

☆画業60年渡辺雄彦自選展

9月15日～20日

せんだいメディアテーク

会員の入賞・入選など

◇第35回上野の森美術館大賞展

▽入選（賞候補）|| 佐藤光郎▽入選（一次賞候補）|| 阿部好江▽入選 || 中村喜吉

◇第80回河北美術展

▽（日本画）河北賞 || 奥山和子、東北放送賞 || 三浦長悦

▽（洋画）秋田県知事賞 || 渥美裕司、山形県知事賞 || 其田章、仙台市教育委員会賞 || 後藤和紀、宮城県芸術協会賞 || 山口優子、渋谷栄太郎賞 || 松宮榮典、山本壮一郎賞 || 高橋恵子

▽（彫刻）東北電力賞 || 清水直土

◇写真の日記念写真展2017

▽（ネイチャーフォト部門）モンベル賞 || 古内克永

謹弔

書道部 真尾露春 殿

平成29年1月22日

書道部 阿部成子 殿

3月

文芸部（短歌） 大和類子 殿

3月10日

工芸部（漆芸） 高橋文治 殿

4月10日

絵画部（日本画） 櫻井實 殿

5月1日

華道部（池坊） 近江香朴 殿

5月31日

絵画部（洋画） 佐々木津也 殿

6月

華道部（草月流） 及川光波 殿

6月13日

茶道部（煎茶道三彩流） 星悠文 殿

6月16日

文芸部（短歌） 徳山高明 殿

6月21日

洋楽部 庄子みどり 殿

7月14日

けやきの譜

「一強」とされ、かなり強引な政権運用をしてきた安倍内閣も、東京都議選を境に屋台骨がぐらつき始めてきた。森友学園や加計問題など、危うさを内包していた安倍政権だけに、やはりという気もする。アリの一穴となるのか。▼崩れそうな芽はあったのだが、都議選の小池さんの「一発」で政権までもぐらつくとは、やはり一寸先はヤミの世界である。こうして内閣がつぶれた例は、枚挙に遑がない

▼そうした「雑音」とは無縁のところ、芸術の秋は静かに幕を開ける。芸術祭の行事としては、9月17日のピアノコンクールガラコンサートを皮切りに、

絵画や彫刻、工芸、書道、写真、音楽など多彩な催しの数々が披露され、人々を芸術の輪で包み込む▼今年から芸術祭に共通テーマを設定することになった。

初めてのことである。今回は「結い」をテーマに、芸術の分野で「手をつなぎ、輪を広げる」「力を貸し合う」姿の表現を試みる。「結い」の思想が芸術の輪を一段と大きく広げるものと、期待が膨らむ。

(恂)